

## 図画工作科学習指導案

指導者 ○○小学校  
教 諭 ○○ ○○

- 1 日時・場所 平成26年10月○日 (○)
- 2 学年・学級 第5学年○組
- 3 題材名 刷り重ねて表そう ～一版多色木版で～ 「A表現(2)」
- 4 題材について

### ○ 児童観

造形への関心・意欲・態度について・・・  
発想や構想については、・・・  
技能面では、・・・  
鑑賞に関しては、・・・

指導要領に基づき、4つの観点に沿った児童の実態を記述する。

### ○ 題材観

<略>

### ○ 指導観

### 5 題材の目標

○ほったり刷ったりしながら、線や色の調子や重なりをたしかめて、多色木版に表すとともに、表し方の特徴や一版多色木版に表すよさを感じ取ることができる。

※ 本題材で育成する資質や能力について網羅した形で一文で表す。

※ 国立教育政策研究所の【評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料】を参照して作成する。 (<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>)

### 6 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	<p>① 表し方を理解し、一版多色木版に表すことに興味をもって取り組もうとしている。</p> <p>② 自分や友人の表現意図や特徴などを捉え、自分の思いをもって味わおうとしている。</p>	<p>一版多色木版の表し方の特徴から、表したいことを見つれたり、構図や配色などを考えたりしている。</p>	<p>自分の表したいことに合うように、彫る線の太さや絵の具の濃さなどを工夫している。</p>	<p>自他の作品について感じたことを話し合いながら、表現の意図や特徴などを捉えている。</p>

※題材の評価規準のみ表記（具体の評価規準は書かない）

7 指導と評価の計画（全7時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 （2時間）	一版多色木版の表し方の特徴を知り、表す内容や表し方を考えよう。			
	一版多色木版の表し方を理解する。 彫刻刀の練習をし、表現できることを理解する。 表したい内容を決める。 表し方を決める。 版木に転写する。	アー① イ  ・下絵 ・活動の様子を観察	一版多色木版を取り組むことに高い関心を示し、積極的に活動している。  一版多色木版の表し方の特徴から、表したいことを見つけたり、表し方を構想したりして表している。	教科書や参考作品を見せて、題材について興味がもてるように声かけをする。  他の児童の作品を見に行ってもよいことを伝えたり、参考となる資料を探しに行ってもよいことを伝えたりする。
第二次 （4時間）	表したい内容に合った色や配色の効果などを考え、版木に色を置き、刷ろう。			
	彫刻刀を使って線彫りをする。  色画用紙を版木に貼る。  ※ 「評価規準・方法」の評価規準については、「6 題材の評価規準」と整合性を図るため、記号等で記述する。  絵の具を版木に付け、バレンで刷っていく。	アー① ウ  ・活動の様子を観察 ・作品	彫刻刀で彫ったり、絵の具で色を付けたりする活動に高い関心を示し、積極的に表現活動をするとともに、時間いっぱい集中して取り組もうとしている。  自分の表したいことに合うように、線の太さを考えながら彫刻刀で彫ったり、色の濃さや配色を工夫しながら色を付けたりしている。	児童と個別に相談し、本時の活動を明確にするとともに、参考作品を見せるなどして活動の見通しをもたせる。  参考作品を見せたり、友だちの作品を見に行ったりしてよいことを伝える。
第三次 （1時間）	作品を紹介し合い、表現のよさや美しさを感じ取ろう。			
	自分や友人の表し方の工夫や、作品のよさや美しさを感じ取る。	アー②	自他の作品について感じたことを積極的に話し合い、表現の意図や特徴などをより具体的に捉え、よさを感じ取っている。	書いたり伝えたりすることに戸惑っている児童には形・色・イメージをもとに思いを聞き、考えを引き出していく。

## 8 本時の目標

<略>

※ 作成した「6 題材の評価規準」をそのまま記述する。

## 9 準備物

指導者	版木, 下絵用紙, カーボン紙, セロハンテープ, 作業板, 色画用紙 (黒色), ばれん
児童	彫刻刀, サインペン, 絵の具道具

## 10 本時の展開

<略>

学習活動	教師の支援 *努力を要すると判断される児童への支援	評価規準・評価方法
1		
	○ ○	
2	○	
○ ○		
3	○	

※ 評価規準に基づき努力を要すると判断される児童への具体的な支援を記述する。（「4 題材について」の指導観に記述した内容。）

※ 「8 本時の目標」（評価規準）を児童にも分かる言葉にして示す。

見取る場面や方法を具体的に記述する。

※ 評価規準は、1時間に多くても2つ程度とする。また、十分満足と判断される状況（A評価）を記述し、その状況を想定した上で評価を行う。